



発行 日本共産党 寝屋川議員団 072-824-1181 FAX:824-7760 No.3528

寝屋川市会議員 中林かずえ 宝町4-33 090-3944-8385

寝屋川市会議員 松尾信次 下木田町12-6 090-3056-9924

寝屋川市会議員 西田まさみ 石津中町30-3 090-9713-3588

前寝屋川市会議員 太田とおる 高柳2-49-2 080-3818-9722

# 重度障がい者の入所施設の整備を 中林議員が委員会で求める



## 府実態調査に寝屋川市が提出した内容

1. 待機者総数 (2024年3月31日時点) 48人

2. 待機者の状態像(障害支援区分)

障害支援区分				
区分3	区分4	区分5	区分6	なし
3	14	10	21	0

3. 現在の生活の基盤

自宅家族同居	自宅単身	グループホーム	病院精神科
29	2	14	2
高齢者施設	障害者施設	矯正施設	その他不明含む
0	0	0	1

4. 待機者本人の年齢

~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳
0	8(16.7%)	11(22.9%)	15(31.3%)
50~59歳	60~69歳	70~79歳	
12(25.0%)	2(4.7%)	0	

5. 自宅(家族と同居)の主な介護者年齢

40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳
0	2(7.1%)	8(34.8%)	10(35.8%)
80~89歳	90~99歳	兄弟姉妹、ヘルパー等	
6(21.4%)	0	2(7.1%)	

中林議員は、2025年度の新しい事業として、①「愛情のバトン事業」、②「親なき後のサポート普及事業」を実施するにあたって

は、ひとり1人の障がい者の実態を把握すること、必要な支援につなげていくことを求めました。また、大阪府の実態調査結果を市ホームページにリンクさせることを求めました。(裏面に2つの事業資料掲載します)

## 障がい者の実態把握を

委員会終了後に、公表された寝屋川市の実態は左記の通りです。施設入所待機者(2024年3月31日時点)

は48人で、うち障害支援区分が5・6が31人(65%)で、自宅で家族と同居している待機者は29人(60%)です。

その29人と同居の主な介護者の年齢は、70才~89歳が55%をしめ、うち6人は80才~89歳の高齢家族が介護する実態です。

また、この他にも、入所をあきらめて申請をしていない障がい者がいる可能性もあり、早急に実態調査を行うべきです。

## 本市 自宅での介護者70才以上が55%

父親は、母親と2人で息子の世話をするのは「限界」として、相談支援事業所に入所を打診したが、他府県の障がい者施設、グループホーム、病院入院も断られ追い詰められての事件でした。殺人は許せませんが、他人事では済まされない問題です。

中林議員は、大阪府の施設入所待機者の実態調査1回目(2023年3月)と、2024年8月の2回目の調査で市が大阪府に提出した内容の公開を求め

ました。大阪府のホームページでは、1回目調査で、大阪市を除く府内の待機者は1077人で、5年以上前からの待機者620人で、障害支

援区分5・6が863人で約8割、自宅で家族同居が581人(54%)で、主な介護者が60歳以上が86%、70歳以上が61%となっていました。

## 府実態調査に市が提出した内容の公開を

父親は問題をおこす息子の近所への迷惑を考え、引越しを繰り返したということです。政府は「地域移行」をすすめ、施設の定員を段階的に減らす方針です。そのため、グループホームは増えていま

すが、重度障がい者が受け入れられない状況があります。★(質問)本市では、このような悲しい事件はおきないと考えて良いか? ●(答弁)さまざまな支援を行い事件がおきな

いように務める。中林議員は、重度障がい者入所施設の整備を北河内地域で行うこと、強度行動障害などの重度障がい者が安心して利用できるグループホームの設置を求めました。

## 大阪府内(大阪市除く)で 待機者が1077人

# 公共施設に女性用トイレ増設を 中林議員が委員会で求める

## 女性用個室トイレに 子どもシート設置を

健康福祉委員会で中林議員は、5月7日開設予定のサービスゲート(駅前庁舎7階建て)3階の乳幼児健診会場において、女性用トイレの増設と女性個室トイレに子ども用シートの設置を求めました。



サービスゲートの各階の大人用トイレは、この間新たに設置した多目的トイレ1か所と男女各トイレに便器が2個つづです。建物の構造上、これ以上増やすことは難しいとのことでした。また、個室トイレが狭くて子どもシートが設置できないことから、市民が困らないような対策を求めました。

## ソフィア基準 男女比1対3

トイレの男女比が問題になっています。女性がトイレを使用する時間は男性の3倍になるといふことがわかっています。従って、ソフィア基準(日本赤十字の避難

所での便器の男女比)では、便器の男女比率は、男性1に対し、女性3としています。

中林議員は、今後の公共施設の整備では、女性トイレを多く設置するよう求めました。

## 市長申し立て以外で 成年後見制度が予算化

判断能力が不十分で成年後見制度が必要な高齢者と障がい者を対象に、これまでの市



長申し立てに加えて、支払いが困難な市民に対し、親族・本人申し立てを市が助成する予算が組まれました。

支援内容は、申し立て費用(上限9700円)と後見人への毎月の報酬(居宅で月2.8万円、入所施設で月1.8万円)で、高齢者50人分、障害者5人分が予算化されました。

## 後期高齢のしおりが見やすく改善

後期高齢者医療保険の大阪広域連合が発行する「しおり」の文字が小さく、見づらいことを指摘してきました。この間、寝屋川市から何度も広域連合に要望していましたが、改善されませんでした。今回、市として、独自でA4版で「後期高齢者医療制度のしおり」を作成するとの答弁がありました。



坂口明記者(右)

### 議員日誌



## 中林かずえ

3月20日池田南町公民館で「しんぶん赤旗記者を囲む会」が開催されました。スクープで注目を浴びる赤旗の現職記者さんのお話は初めてのことです。

お話をいただいた、坂口明さんは、イギリスをはじめ約20か国で海外特派員をされてきた方で、日本共産党西部後援会の会長さんのお兄さんです。

坂口さんは、高石市の出身で、同窓会で帰阪した機会にお話をいただくことになりました。

参加者から多くの質問が出された中で、私が印象に残ったのは、「赤旗は、他紙にない国民的運動などの掲載で読者を励ましているだけでなく、若い記者の起用や電子化で若い人に読んでもらう努力をしていることでした。私は、多くの方に読んでいただくために頑張りたいと発言しました。